

3つの安全設備の義務化のお知らせ

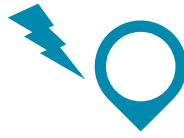
義務化の対象となる安全設備

法定無線設備



法定無線設備の見直し

非常用位置等発信装置



海難発生時に位置情報を発信

改良型救命いかだ等

(乗り移り時の落水危険性を軽減)



水中での救助待機が不要

適用日・経過措置

パブリックコメントや一部製品の開発状況を踏まえ、現在**検討中**です。

対象：遊漁船※

※「遊漁船の適正化に関する法律」の適用を受け、遊漁船業の用のみに供する船舶(小型兼用船を含む)

※「海上運送法」の適用を受け人の運送をする船舶及び遊漁船業以外で旅客を13人以上搭載する船舶については、**旅客運送事業者等の皆様向け**のお知らせをご確認ください。



<旅客船運送事業者等の皆様向け>

法定無線設備

●義務化について

- 限定沿海を航行する「①旅客定員13人以上の遊漁船」の法定無線設備から携帯電話を**除外**
- 「②旅客定員12人以下の遊漁船」に対して、新たに法定無線設備を**義務付けを予定**

<適用日以降の義務化の対象範囲>

| | ①旅客定員13人以上の遊漁船 | ②旅客定員12人以下の遊漁船 |
|--------------|--------------------------|--------------------------|
| 平水(湖川港内) | 不要 | 不要 |
| 平水(上記を除く)琵琶湖 | 業務用無線設備 又は 衛星電話 又は 携帯電話* | 業務用無線設備 又は 衛星電話 又は 携帯電話* |
| 2時間限定沿海 | 業務用無線設備 又は 衛星電話 又は 携帯電話 | 業務用無線設備 又は 衛星電話 |
| 沿岸5海里 | 業務用無線設備 又は 衛星電話 又は | |
| 沿海 | | |

※航行区域が携帯電話のサービスエリア内にある場合に限る

非常用位置等発信装置

●義務化について

- 限定沿海以遠を航行する「遊漁船(①及び②)」に対して非常用位置等発信装置の積み付けを**義務化**

<適用日以降の義務化の対象範囲>

| | ①旅客定員13人以上の遊漁船 | ②旅客定員12人以下の遊漁船 |
|-------------|--------------------------------|----------------|
| 平水 | 不要 | 不要 |
| 2時間限定沿海 瀬戸内 | EPIRB* 又は AIS(簡易型(Class-B)を含む) | |
| 沿岸5海里 | | |
| 沿海 | | |

※AIS-SART機能を有し、位置情報が向上した新型

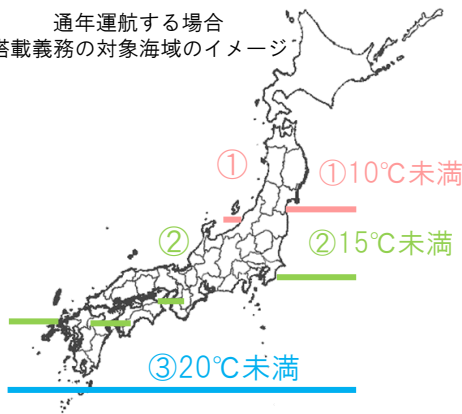


改良型救命いかだ等

●義務化について

- 一定の水温を下回る海域での救命設備として、改良型救命いかだ等の積み付けを**原則義務化**

通年運航する場合
搭載義務の対象海域のイメージ



＜適用日以降の義務化の対象範囲＞

海水温については、気象庁等のデータを元に、過去30年間（瀬戸内5年間）の海面水温の平均値を元に基準を設定。

| | ①旅客定員13人以上の遊漁船 | ②旅客定員12人以下の遊漁船 |
|------------|--|----------------|
| 平水（湖川港内） | 不要 | 不要 |
| 平水（一部の湖※1） | 水温が10度未満となるおそれのある水域を航行する場合 改良型救命いかだ等の積み付けが必要 | |
| 平水（上記を除く） | | |
| 2時間限定沿海 | 水温が20度未満となるおそれのある水域を航行する場合 改良型救命いかだ等※2の積み付けが必要 | |
| 沿岸5海里 | | |
| 沿海 | 改良型救命いかだ等※2の積み付けが必要 (一部の船舶は15度未満) | |
| 近海 | 改良型救命いかだ※3の積み付けが必要 | |

※1：琵琶湖、霞ヶ浦、サロマ湖、猪苗代湖、中海、屈斜路湖、宍道湖又は支笏湖
 ※2：総トン数20トン以上の大型船の場合（沿海）、改良型救命いかだまたは救命艇
 ※3：総トン数20トン以上の大型船の場合、改良型救命いかだまたは救命艇

★水温の確認方法

下記QRコードをスキャン
各水域の温度をご確認いただけます

＜QRコード＞



＜URL＞

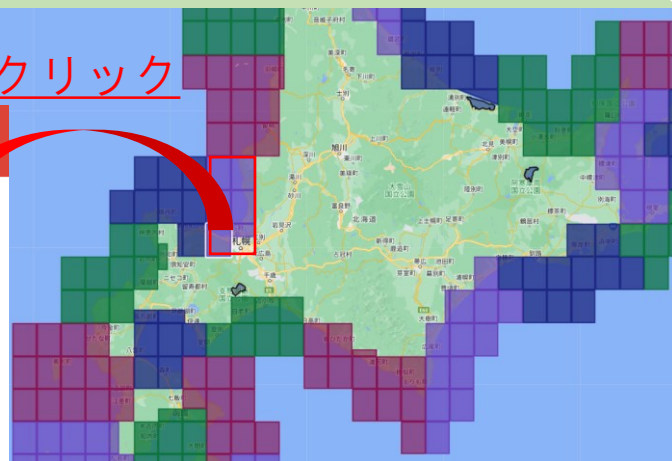
<https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1WYfuPDnW5An1eBwm2ioTB527IQjz3l&ll=43.59519975346771%2C142.93033323178628&z=7>

クリック

← 109_石狩地方沿岸_05

名前
109_石狩地方沿岸_05

説明
【石狩地方沿岸】
・10度未満：12/7～5/15
・15度未満：10/29～6/17
・20度未満：9/25～7/24
・20度以上：上記期間以外



●搭載不要となる特例（組み合わせも可能） ※2024年1月19日時点

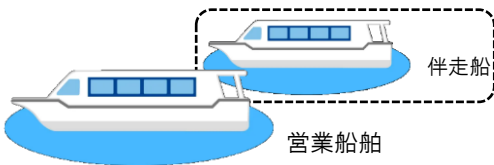
- 一定の水温を下回る時期に運航しない

例：種子島・屋久島沿岸海域

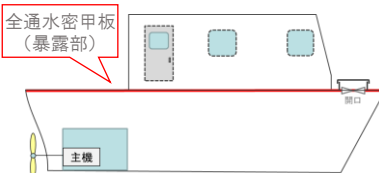
- ・10度未満 該当なし
- ・15度未満 該当なし
- ・20度未満 1/30～3/8
- ・20度以上 3/9～1/29

20度未満の時期1/30～3/8は航行しない場合は積み付けは不要

- 航行時に伴走船を伴う場合



- 全通水密甲板を有する船舶（15度～20度に限る）



- 救助船を配備している船舶（15度～20度に限る）



- 母港（出発港）から5海里以内を航行する船舶（15度～20度に限る）



※現存船で救命いかだ等（救命いかだ又は内部収容型浮器）を搭載している場合、乗込装置を備え付ける場合に限り、引き続き既存いかだ等を搭載が可能

詳しくは右のQRコードより「義務化の方向性」の資料をご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_mn6_000021.html

ご不明点あれば、最寄りの検査機関（小型船：JCI、大型船：地方運輸局）にお問い合わせください。

